

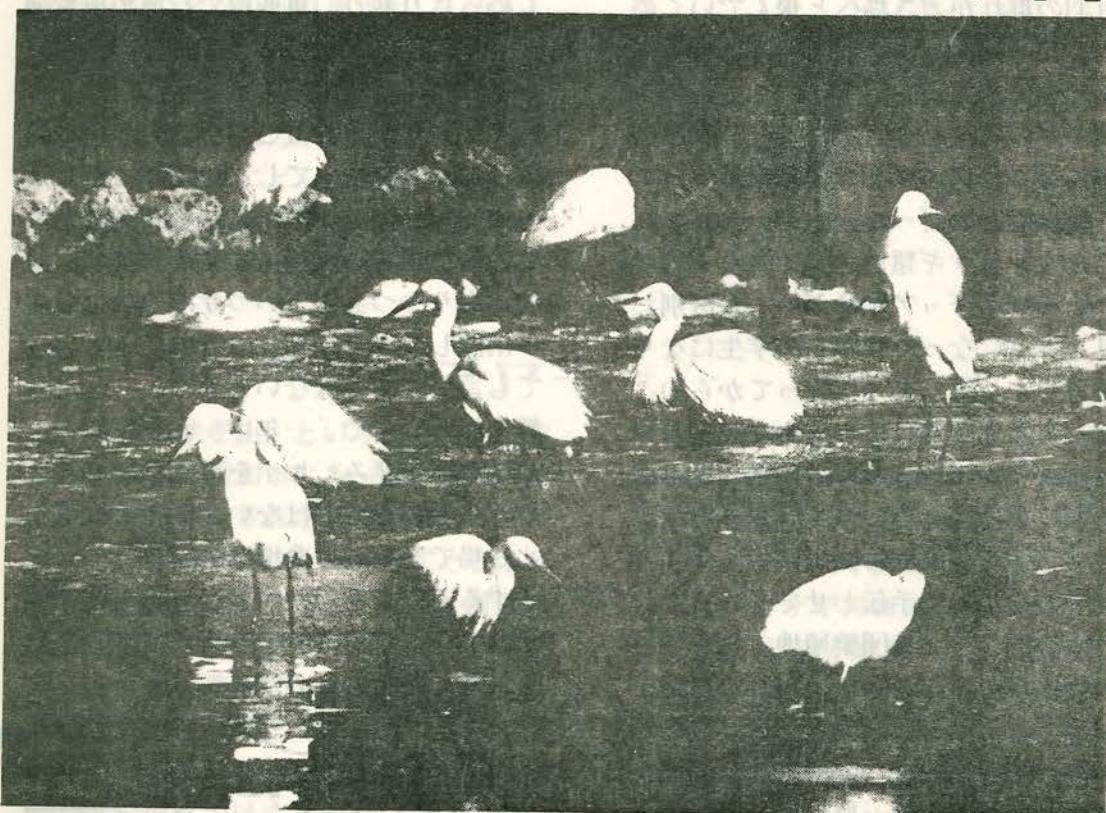
すずがも通信 44

行徳野鳥観察舎友の会会報

1987年6月1日

特集

しらさぎ



シラサギ

原島 政巳

幼い時から行徳で育った僕にとって、シラサギ類は家の回りの池や沼にいくらでもいる、ごく普通の鳥だった。街を歩いていると、上空を数十羽、多い時には数百羽の群れがえさ場へと飛んでいく姿をよく見かけた。また、東西線に乗ると線路の両側の蓮田や沼地にたくさんシラサギがいて、初夏ともなると、新緑の蓮田に点々と白いサギのいる光景はとてもきれいなものだった。

そんなシラサギ類を、ダイサギ・コサギ・チュウサギ・アマサギ……と区別して見るようになったのは、小学生になり観察舎へよく行くようになってからのことだ。姿も大きく目につきやすいサギ類は、僕が初めて自分の目で識別できるようになつた種類のひとつでもあった。

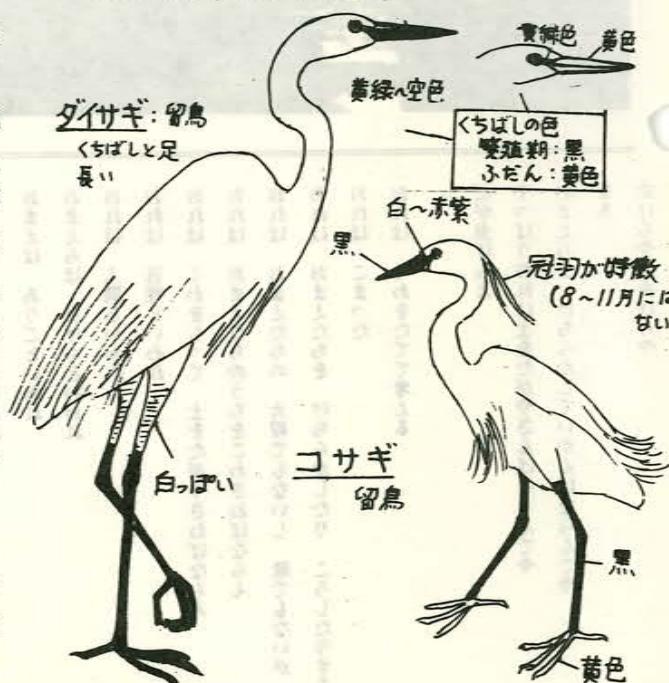
中学生の時、新浜御獵場に入りするサギのカウントを手伝わせてもらった。サギのコロニー（集団繁殖地）になっている御獵場からえさ場へ向かう、また、戻ってくるサギの数を朝夕2回、数えるものだ。空がうつすらと白み始める頃、真白いサギが数十羽、群れになり、御獵場の木々の梢からフワリフワリと舞い上がりてくる。ひとしきり数十羽の群れが飛んでいったかと思うと、糸を引くように、1羽、2羽がその後に続き、しばらくすると、また数十羽の群れが……もうあんな光景は2度と見られないだろう。

今、埋め立ての進んでいる妙典でも、冬になると必ず、カモ獵の網にからまつて死んでいるコサギやダイサギを数羽、見かけたものだ。

いつの間にやら、シラサギの群れていた蓮田や沼地は埋められてなくなり、行

徳は高層マンションや住宅の立ち並ぶ街へと変わっていった。サギの数も、住宅の数に反比例するように、急激に減っていった。頭上を飛ぶサギを見かけることもめっきり減り、東西線で行徳の街を通過する時も、目につくのは新緑の蓮田に白いサギの姿ではなく、くすんだ象牙色のマンション群とほこりっぽい赤や青の屋根ばかりになってしまった……。

今、御獵場で繁殖しているサギにとって、行徳周辺の環境はますます厳しいものになりつつある。いつサギのコロニーが消滅してもおかしくはない」といっても言いすぎではないと思う。これだけ都心に近い所で、一年中、えさを取り、しかも卵を産み、ヒナを育て上げるのは並み大抵のことではない。彼らの大重要なえさ場であった妙典地区の埋め立てが完了する前に、何とかえさ場を確保して、せめて今の状態だけでも持続できるようにしてやりたいものだ。



シラサギの口ばしは何色？

行徳で、シラサギの口ばしは何色？と尋ねたら「黒」という答えが一番多いのではないかと思います。でも、ひと昔前までは、行徳では「黄色」が普通だったそうです。口ばしの黄色いアマサギやチュウサギ（冬羽）、ダイサギ（冬羽）が多くなったことがわかりますね。しかし、田んぼで昆虫類やザリガニ、カエルなどを食べることの多いアマサギやチュウサギは、住宅地が増え、えさ場がなくなってしまったためにどんどん数が減り、今では春や秋の渡りの季節に見られるだけになってしまいました。

それに対して、コサギやダイサギは海や川などでえさをとりながら生き残りました。コサギの方が身近にいます。それで今では行徳で見られるシラサギの口ばしはたいてい「黒」なのです。



消えゆくサギのコロニー

「野田のサギ山」というのを御存じですか？埼玉県浦和市にあった、国の天然記念物にも指定された有名なサギのコロニーで、最盛期には4万羽をこえるほどのサギがいたところです。でも、周辺の開発が進んで水田、池、沼などのえさ場が減り、また農薬でえさがなくなったり汚染されたりしたため、少しづつ数が減り、1971年に25の巣を作ったのを最後に1972年にはサギはすっかりいなくなり、あれほど有名だったサギ山も消滅してしまったのでした。

また、千葉県館山市にも、1968年頃からシラサギが住み始め、1978年頃には約1万羽ものサギが住んでいたサギのコロニーがありました。しかし、1980年の夏サギ山が臭い、うるさい、いけすのイワシが食べられるという理由で1000羽以上のサギが射殺されました。そして、草が刈られ、木が切られ、巣が落とされ……たった2年間でサギは1羽もいなくなっていました。

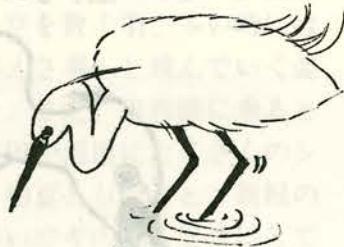
新浜鶴場でも、かつては1万つがいものサギが巣を作っていました。最盛期よりかなり数が減った1968年6月23日の調査では、ダイサギ約500巣、チュウサギ1400巣、コサギ1000巣、アマサギ100巣、ゴイサギ600巣が繁殖中でした。その3年後(1971)には、ダイサギ50、チュウサギ70、コサギ1000、アマサギ10、ゴイサギ300（巣）と急激に減少しています。

今、御獵場では約30羽のシラサギと50羽のゴイサギが細々と巣を営んでいます。大半は行徳で冬を越します。この小さなサギのコロニーの灯はいつまで続くでしょうか。



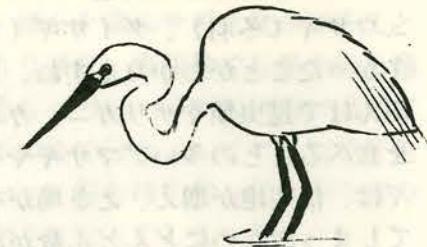
観察してみよう!

観察舎から見えるつサギやダイサギがエサをとっている様子
を観察してみよう。



つサギがしきりに足をふるわ
せている。ビンボーゆすりじゃ
なくて、魚を追い出しているん
だ？

*「シラサギ」は体の白いコサギ・チュウサギ・ダイサギ・アマサギなどの総称です。



しんぼう強く、魚の動きのを
待っている。ガマンくらべを
してごらん。

※こども自然観察会 6月13日(土)

行徳野鳥観察舎 午後1時半集合

観察舎からコサギやダイサギの様子を観察しましょう。友の会のやさしいおにいさん
おねえさん達(?)といっしょにコサギとダイサギの違いや、エサのとり方などをじっくりと観察します。鳥がぜんぜん分からなくても大いじょうぶ。会員でなくても、もちろん、こどもでなくても参加は自由です。みんなできてね。

担当：東 鑑子 [REDACTED]、鈴木裕子 [REDACTED]

新 入 会 員

住 所 変 更

鳥の国から

蓮尾 純子

冬鳥のカモやカモメたちが1つ、また1つと姿を消して、水面はすっかりさみしくなりました。愛敬もののコアジサシだけが、目のさめるような小気味よいダイビングを見せてくれます。上野からくるカワウの若者たち、わずかばかりのサギ、居残り組のスズガモなどが主な顔ぶれです。

かわって目立つのがカニさんのダンス。はさみの白いチゴガニがおいちに、おいちにとやる姿の楽しいこと。チゴガニしかいないと思って望遠鏡をむけたらしましまのはさみを持つコメツキガニも結構まじっていました。チゴガニの腹はトルコ青、コメツキガニは赤紫です。鳥が近付くと、さーっとほうきではいたように巣穴に隠れます。



4月、“オオソリハシシギ・ブーム”がありました。“セイタカシギ、大空をとぶ”などの写真絵本で有名な作家の国松俊英さんが書かれた“小さなひがた”という作品が、小学4年の国語の最初にあるのです。谷津干潟のオオソリハシシギが出てくるので、4年生のお友だちやご父兄の方々から、“オオソリハシシギは見られるでしょうか”という問い合わせが相次ぎました。遠足が1件、クラス単位での見学が1件。ところが、ところが、4月中は1羽のオオソリハシシギも見られなかったのです。谷津干潟には百羽以上もいるというのに。穴があったらカニさんみたいに入りたい！でも、教科書で干潟や渡り鳥のことが取り上げられるのは、すばらしいと思いました。保護区の干潟にもっと生物がふえれば、オオソリハシシギだってどっさり見られるようになるはずなのですが。

スイカズラ、ノイバラ、トベラと初夏のかおりが勢ぞろい。新緑のここちよい匂いや刈ったばかりの干し草の匂い、これでどぶ臭ささえなければねえ。でも、まあ、聞いてください。捕虫網やポリ袋を持った小学生の一団が、先生に引率されてぞろぞろと通りすぎました。「先生、メダカなんかいなかつたよ。ミジンコはっかりじゃない。」こどもたちはちょっとがっかりしているようでしたが、これ実は丸浜川のこと。そりゃ、メダカはまだ無理ですよね。何たって、どぶなのですから。でも、ふだんのまっ黒な水を見慣れた目には、ミジンコがいることだけでもとてもありがたく思われました。

ウィスコンシン大学から来られたマイクさん。国際ツル財団のスタッフです。

「あのプロペラみたいなのは何ですか。」貧弱な英語力をしぶりだして、酸素入れる、生物そだつ、浅い池つくる、よごれた水いれる、鳥、くるはず、といった調子の説明をしたら、「マジソン（ウィスコンシン大学のある市）で一番シギが多いのはねえ、汚水処理場だよ。何しろぼくは珍しいエリマキシギまで見たんだから。ちょっと臭いけれどね。」

汚水を導入して湿地をつくり、水の浄化と水鳥の誘致を同時に実現しようという計画を説明するのに、ふつうは最低でも30分はかかります。わずか数語の説明でわかってしまったマイクさん。アメリカと日本の違いを痛感しました。でもどちらかというと、きっと日本の方が汚水処理技術がはるかに“進んで”いて、一般人の手のとどかない、目にふれないものになっているためだろうとも思いました。谷津干潟などは、干潟自体がきわめてすぐれた汚水処理場ですものね。そう言ったら怒られるかしら。

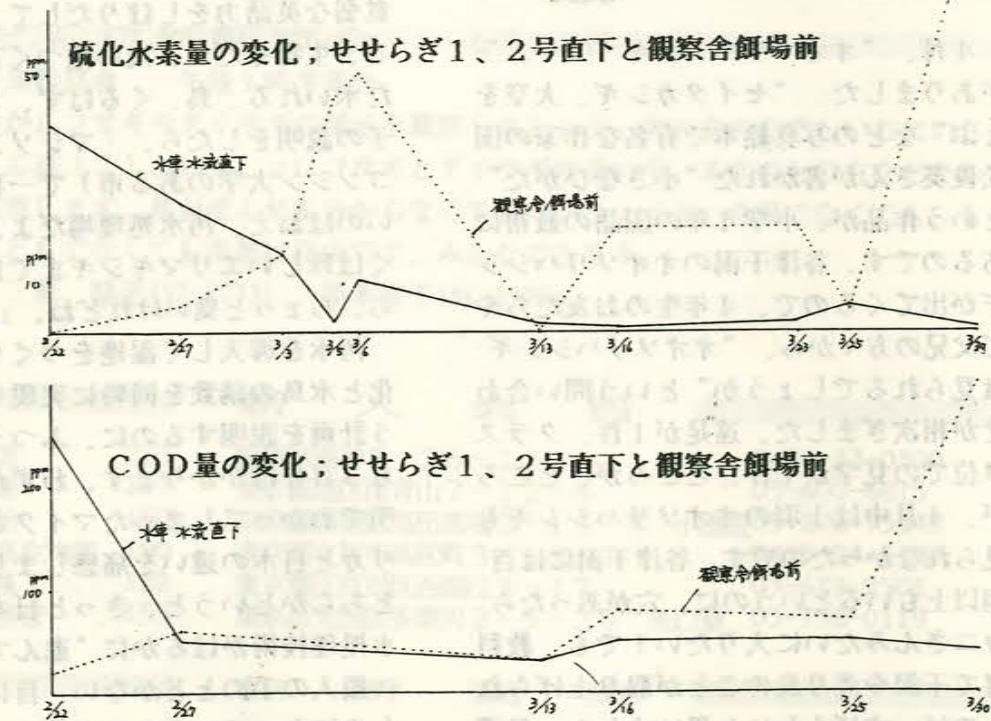


水車で水がきれいになる？

うなぎ養殖用の水車“せせらぎ1号”が動き始めてから丸1年、2、3号が増設されてから3か月。あいかわらず黒い水やどぶ臭さが続いている。排水機場で全面的なポンプ排水が行なわれ、川底が見えるような状態になってから4日位で、丸浜川全体がまくろになってしまったのです。4、5月は記録的な雨不足のためもあり（雨の前しか全面排水をしないので）、川が黒い日の方が多いほどでした。

水が黒くなるのは、硫化物ができるためです。硫化物は、硫化水素の発生を示し、硫化水素は嫌気性のバクテリアがつくるもの。十分な酸素があれば嫌気性のバクテリアはおさえられ、硫化水素は発生せず、水や泥は黒くなりません。ついでに言うと、硫化水素が大量に含まれてまくろになった水が酸素に触れると、硫黄が析出して白く濁ります。水が黒くなったり、白くなったり、時には藻類の大発生で緑になったりするのを見ていると、まるで理科の実験室みたいです。

おもしろがってばかりもいられません。まくろな水は、水車をまわしたところで何にもならないという証明みたいなものです。でも、本当にそうなのでしょうか。せせらぎ1号の下では、確かにイトミミズやユスリカが定着してくれました。今年の水の状態が最悪だからと言って、がっかりすることはできません。更に、もっとおもしろいことがおきているようです。せせらぎ1、2号を動かしてから5週間の変化を見てみましょう。

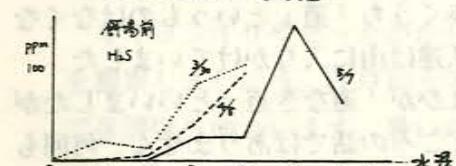


水車から160m離れた観察舍餌場前は、水車の影響が少ないはずです。餌場前では水温の上昇とともに水の汚れがひどくなっているのに、水車直下では逆に減っています。ここでは省きましたが、アンモニア量でも同じ傾向が見られました。なお、資料は通常の表層水ではなく、水底の泥水を用い、共立理化学研究所の簡易分析を用いました。

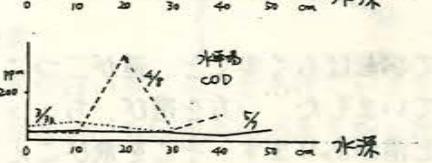
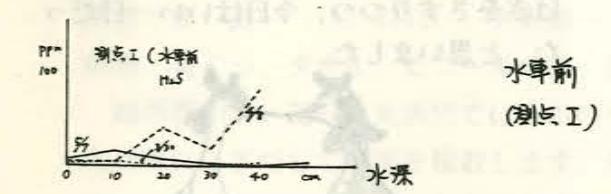
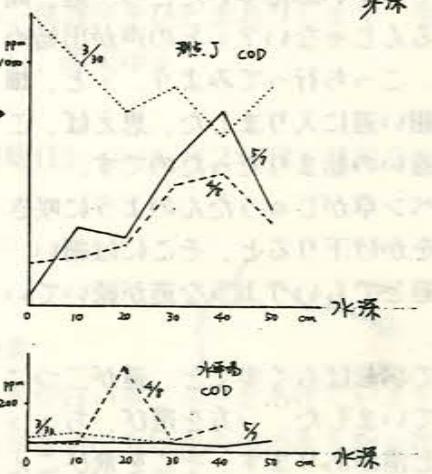
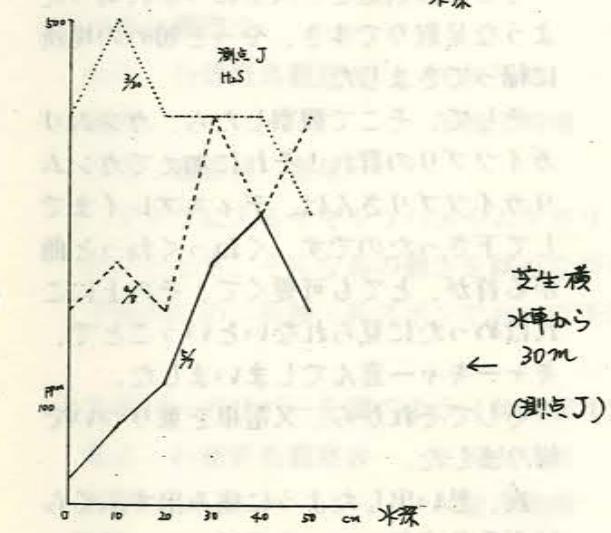
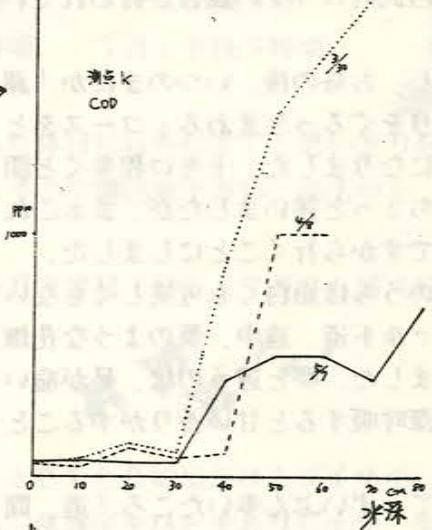
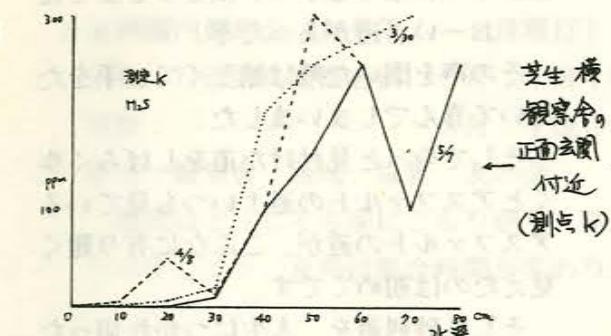
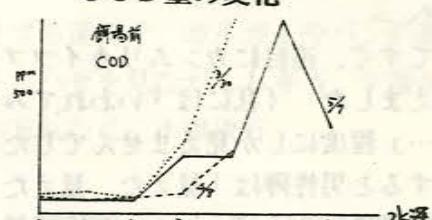
同じ地点でも、水深が深いほど水が汚くなります。日光や酸素にふれにくく、汚れの分解が遅れるようです。丸浜川のように極端に汚い水では、最低水位時に水深が40cm以上あるところは最悪です。逆に30cm以下だと、汚れが一挙に十分の一くらいになります。ほんの少し浅くするだけでも、汚れた水はすいぶんきれいになるようです。

下の図は、水深別にはかった硫化水素とCODの量ですが、やはり水車の下がはっきり低いのがよくわかります。J点、K点はしゅんせつで深くなってしまったため、極端に汚くなっていました。このまま少しづつでも汚れが減ってくるとよいのですが。

硫化水素量の変化



COD量の変化



測定した結果を見る限りでは、たとえ丸浜川全体を水車3台できれいにすることが不可能であるにせよ、水車を回した効果ははっきり出てきたということになるでしょう。ちょっとよすぎる結果じゃないか、とひやひやしているところです。

狭山湖に行ったこと

3月29日、降るかな、降らないかな、といった天気の中、野鳥観察舎友の会のジュニアの面々による「狭山湖観察会」がありました。

リーダーの蓮尾さんと若本君を先頭に一行は地下鉄と西武池袋線を乗り次いで狭山湖へ。

行ってすぐ、遠目にカンムリカツブリが見えました。（私には『いわれてみれば……』程度にしか見えませんでしたが。）すると男性陣は「見えた、見えたさあ野球見にいこうぜ。」……西武球場では、西武対ロッテの試合が行われていました。

しかし、お昼の後、いつのまにか「湖のまわりをぐるっとまわる」コースをとることになりました。十キロ程歩くと聞いて、ちょっと迷いましたが、まあこれも経験ですから行くことにしました。

初めのうちは面白くも可笑しくもないアスファルト道。途中、夢のような花畠がありました。夢と違うのは、足が痛いのと、深呼吸すると甘い香りがすることです。

そして、ずいぶん歩いたころ「道、間違ってるんじゃない？」との声が出始め「じゃ、こっち行ってみよう。」と、畑の間の細い道に入りました。思えば、これが間違いの始まりだったのです。

ベンベン草がじゅうたんのように咲き並ぶ道をかけ下りると、そこには細い

あぜ道とでもいうような道が続いていました。

そして、しばらく歩くと、道が二つに分かれていきました。一方を選び、ちょっと歩くと溝があります。そこを飛びこえて又しばらく歩くと「行きどまり…。」引きかえし、又溝を飛び越えて、（書く

三浦 典子

のは簡単ですが、実際はそう楽なものではありません。）もう一方の道を歩き出しました。

どんどん歩いて行ったのですが、行けば行く程、どうも変なのです。道が…段々…消えていくような…。そして、しばらく歩くうち「道」というものはなくなり、私達は山に入りかけていました。

だれかが「道なき道」といいましたがそれどころの話ではありません。何回も転びそうになりながら、山を歩きました

「おーい、道があったぞ。」

その声を聞いた時は嬉しくて、手をたたいて喜んでいました。

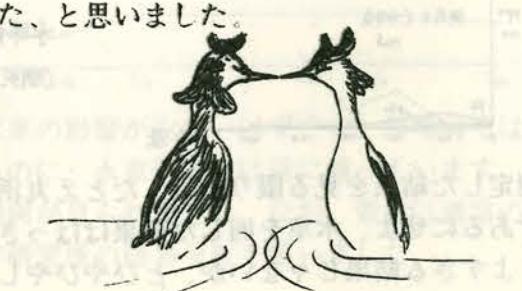
そしてやっと見付けた道をしばらく歩くとアスファルトの道！いつも見ているアスファルトの道が、こんなに有り難く見えたのは初めてです。

そして砂利道を、人生につかれ切ったような足取りで歩き、やっと初めの場所に帰ってきました。

そして、そこで観察したら、カンムリカツブリの群れ！それに加えてカンムリカツブリさんは、ディスプレイまでして下さったのです。くねっくねっと曲がる首が、とても可愛くて、その上にこれはめったに見られないということで、キャーキャー喜んでいました。

そしてそれから、又電車を乗りついで帰りました。

夜、思い出したように痛み出すふくらはぎをさすりつつ、今日はいい一日だった、と思いました。



そして、しばらく歩くと、道が二つに分かれていきました。一方を選び、ちょっと歩くと溝があります。そこを飛びこえて又しばらく歩くと「行きどまり…。」引きかえし、又溝を飛び越えて、（書く

行事案内 誰でも自由に参加できます。参加費無料。

☆定例新浜探鳥会（毎月第2日曜日）

6月14日、7月12日

集合：東西線行徳駅前 午前10時

解散：行徳野鳥観察舎 午後3時頃

担当：東 良一

持物：昼食、飲物、バス代（大人210円、子供110円）、帽子

オオヨシキリやセッカがかしましくさえずる蓮田で、カルガモやバンの親子連れを観察しましょう。江戸川土手でカニやトビハゼを見ながらお弁当。午後からバスで保護区へ向かいます。暑いので帽子をお忘れなく。小雨決行。



☆定例園内観察会（毎月第1・3日曜日）

6月7日・21日、7月5日・19日

集合：行徳野鳥観察舎前 6月：午後1時半 7月：午後3時

解散：〃 6月：午後4時頃 7月：午後5時頃

担当：観察舎 蓮尾、協賛 友の会

梅雨はどうしても家にこもりがち。晴れた休日には外にてて、思いきり自然に親しみましょう。夏場は集合時間が変わりますので御注意下さい。雨天中止。



☆夕暮れ観察会

6月28日（日）、7月26日（日）

集合：行徳野鳥観察舎 午後5時

解散：〃 午後7時頃

担当：観察舎 蓮尾

ネグラに入るサギやツバメやムクドリ。えさをとりに出かけるゴイサギ。夕暮れのひととき、そんな鳥の動きを眺めながら、保護区をひとまわりします。虫さされ予防のため、長袖・長ズボンでおいで下さい。雨天中止。



☆丸浜バードリバーを調べよう（毎月第4日曜日）

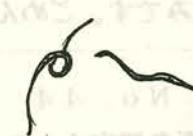
6月28日、7月26日

集合：行徳野鳥観察舎 午前10時

解散：〃 午後3時頃

担当：東 良一 ■■■■■、矢野耕一

持物：長ぐつ、タオル、ビニール手袋、昼食



緑の葦のおい茂った丸浜川では3台の水車が白い水しぶきをあげています。舟で丸浜川にこぎだして底泥を採取します。舟が苦手な方は泥の中の生き物を探すソーティングの作業だけでも参加してみませんか？汚れてもよい服装で。小雨決行。

☆サギ山見学会

5月31日(日)



集合：行徳野鳥観察舎 午後1時半

解散：〃 午後4時頃

担当：蓮尾

予約制です。東 [REDACTED] まで電話でお申し込み下さい。定員は30名、定員になり次第、打ち切らせていただきます。雨天決行。

☆こども自然観察会・「観察してみよう、シラサギ」 6月13日(土)



集合：行徳野鳥観察舎 午後1時半

解散：〃 午後3時頃

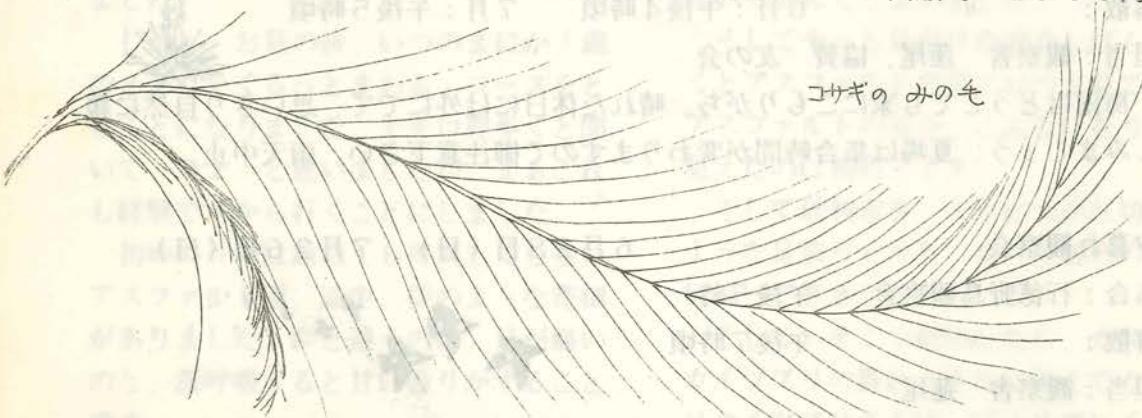
特集したシラサギの行動をじっくり観察してみましょう。詳しくはP4を。

★注目！ものすごくおもしろい本がでましたよ！

マンウォッチングする都会の鳥たち 唐沢孝一著 草思社 1600円

全・東京湾 中村征夫著 情報センター出版局 1500円

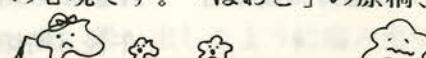
コサギのみの毛



編集後記

いよいよヒナの季節到来。毎日、毎日、はぐれビナやら、足を折ったシギやらにひたすら餌をつめこんでいます。ああしんど。許可が遅れて、“よみがえれ新浜”の淡水湿地造成は夏になりますが、秋の渡りには間に合いそうです。よかったです。（純）

バードウィークの展示ごらんになりました？5月1日の引越以来、我家はいくら片付けても片付かず、まさに丸浜川のバクテリアの心境です。「はおと」の原稿、間に合わずお休みです。ごめんなさい。（馨）



すずがも通信 No. 44

1987年6月1日発行

発行所 行徳野鳥観察舎友の会

年会費 一般1000円、ジュニア 500円

発行人 東 良一

郵便振替

事務局 [REDACTED]

編集 蓮尾純子、東 馨子